

学校の森で 学ぼう

四万十町立東又小学校の「学校林」を使った森林環境教育

学校と地域、保護者が協力して遊び、学べる森へ。

四万十町黒石にある東又小学校は、全校児童66人。校舎から10分ほど歩いた場所には、1956(昭和31)年頃に三千本以上のヒノキやスギを中心植樹され、長い間、放置されていた、約10ヘクタール(※1)の学校林があります。東又小学校は、保護者や地元の森林ボランティア団体NPO法人朝霧森林俱乐部(以下「朝霧」)などの協力で、2014(平成26)年に5年計画をつくり、学校林の整備をスタートしました。その森で遊んだり、学んだりすることで、子どもたちは、さまざまな影響を受けています。

2020(令和2)年7月、6年生10名と中越あかね校長、担任の味元浩子先生が手づくりの看板を持って学校林へつていきました。この日はヒノキ、スギ林の間にある雑木の伐(※2)や、看板の設置を行います。

学校林に入り、その道中に1か所、子ども3人で「右に行けば遊具、左は桜の名所」と記した看板を立てました。そして除伐作業の場所で、「朝霧」の皆さんと合流。今日の除伐について、「この学校林が明るく、見た目も

良くなるように」と説明を受けます。そしてノコギリの挽き方、雑木を切った際に倒れる方向を教わった後、児童2、3名に「朝霧」のスタッフ1名がついたチームとなり、それぞれの場所へ移動しました。

子どもたちは除伐する木を見つけては、我先にとノコギリを挽いていきます。始めは直径1、2cm程度でしたが、次第に5cmも6cmもある雑木を倒すようになりました。

子どもたちへの愛情があるから地域の惜しみない協力がある。

1時間ほど除伐をすると、誰の目にもはつきり判るほど森が明るくなりました。次は看板の設置です。4月に学校林に入った子どもたちに、どんな活動をしたいかクラスで相談しました。次は看板の設置です。4月に学校林に入った子どもたちに、だと思いません。ここは、いくらでも遊べるし、いくらでも勉強できる場所です。」と話します。

たしたちの学校林「宝の山」という看板がありますが、本当にいい言葉だと思います。ここは、いくらでも遊びます。このは、「月日が経つて古びたので今年は看板をつくる」と主体的に提案し手づくりしたもので、今回は3か所に設置しました。その後少しだけ自由時間となり、子どもたちは大喜びで遊具に直線。みんながワイワイ遊ぶ遊具は、「朝霧」の皆さんがつづつ作った物。ここでも子どもたちは、「この学校林が明るく、見た目も

(※1) 10ヘクタールは100,000平方メートル。例えば畠なら60,600枚分。(※2) 育てたい木の生長を妨げる木を伐ること。



- 学校林整備・保全
- 植樹(6年生、5年生)
- ソリーハウスづくり、フラッグつくり
- 動植物の観察
- 木の回りを測つたり
- 木の高さを測る体験
- 伐採体験



四万十町立東又小学校 四万十町黒石502

総合的な学習の時間、生活科など、さまざまな授業で学校林を活用する東又小学校は、6年生を中心に全学年で森林体験学習をしています。また地域・保護者が協力した活動が評価され、平成30年度全日本学校関係緑化コンクール「学校林等活動の部」において、準特選(国土緑化推進機構会長賞)を受賞しました。また、学校内にはビオトープ(※3)があり、自然生態系等を学んでいます。

(※3) 野生の生き物が暮らす場所。

この日の取材の様子はこちから
YouTubeチャンネル
森林環境情報誌 もりりん

森に入って
特集
楽しく学びませんか?



木によつて
硬さがちがうね。
力がいる木と
いらん木が
あることがわかつた。



ノコを引くと、
だんだん切れてくる。
その感覚が面白かった!

